

プログラグ

ここではあえて「男性保育士」という言葉をたくさん使います。僕は「男性保育士」という言葉が大好きです。今は、この言葉をどんどん使っています。だって、まだその言葉にたくさんの方の可能性を秘めた「チャンス」が眠っているのだから☆

僕自身「男性保育士」という言葉は、非常に偏見を感じる言葉だとずっと思っていました。だって、女性の保育士には「女性保育士」なんて言葉は使わないでしょ？　しかし、やはり珍しいのでしょうか。まだまだ「男性保育士」という言葉は、普通に健在しています。

僕が就職してから、たびたび「男性保育士が……」と悲しいニュースが流れることがあります。そのたびに「男性保育士」に対するイメージが悪くなるなあとヒヤヒヤしていました。いや、おそらくこういったニュースをご覧になった方、とくに乳幼児期の子育て中の親や、保育関係の仕事をしている方には少なからずマイナスのイメージがついたことでしょう。でも、これが今の世の現状であるなら、それをしっかりと受け止めた上で、イメージを払拭していかねばいけないのも「男性保育士」の使命だと思います。

なんで、そんなことをしていかねばいけないのでしょうか。「まったくもってめんどくさいことをしてくれた」、そう思う「男性保育士（学生）」もいるかもしれませぬ。でも、しょうがないので

す。僕たちはまだまだ先駆者なんだから。飛び込んだ世界はまだまだ「女性の社会」なんだから。そして、その道を選んだのも「自分自身」なんだから。自分の道は自分が切り開いていかなければいけません。そして、後輩たちのために最高の環境へと整えてあげなければいけません。

僕は愛知県豊田市の公立園で二番目の「男性保育士」でした。たまたま、ちよつと早めに「男性保育士」として就職しただけです。

幼稚園に四年間勤務後、保育園へ異動になり、途中から豊田市立の保育園、幼稚園の名称はすべてこども園に変わりました。豊田市職員として十一年間たくさんの方にお世話になり、その後、株式会社の認可保育園の立ち上げを、主任という立場でお手伝いしました。

その後、フリー保育士としてたくさんの職場を見ながらも、主に六カ所の小規模保育所と一カ所の託児所講師として活動していました。このときは年間で百近い講座を行っていました。

そして、現在、社会福祉法人で認可保育園の園長をしています。

こうやって振り返ると、こんなにいろいろな保育施設を経験してきた保育士はそうはいない気がします。一見フラフラ定まらない保育人生を送っているようですが、僕にとってはお導きがあったのです。僕を活かしてくれる方々に出会いました。そして、それぞれの保育の特色に触れることができ、たくさん学びを得ることができました。

一方で、子育て支援事業にも力を入れており、仕事+αというより、趣味の一環として楽しみながら。これまで四百近い講演・講座を経験することができています。毎回、失敗と反省だらけの日々ですが、こうやって経験を積み、自分が成長していけることが嬉しいのです。

今回、本を書くにあたり「たまたま」だったのか「計算」だったのか、その偶然が重なり筆をとっています。

実のところ、来年度あたりに「保育の現場をちよつと変えてみた」という話をブログで書きたいなあ。それがいつか本になって、日本の保育の暗いニュースを、少しでもハッピーに変えてやるぞ〜！と企んでいたのは「計算」。

そして、その前の練習として、「男性保育士の社会をちよつと変えてみた」というタイトルでブログに書いていたのは「たまたま」。どうやったらたくさんの人たちに見てもらい、影響力のある発信ができるのかを模索していました。そんな中「たまたま」編集者の方の目にとまったようです。また十話目ぐらいだったから、僕を見つけてくれた編集者の方は本当にすごいと思います。

ということで、「保育の現場をちよつと変えてみた」話を発信する前にこちらがピックアップされる「男性保育士」話を書けることになったという光栄な状況になりました。

偶然でも、世の中に発信するというのは、僕一人の力ではできないことがたくさんあります。こう

やって、そのきつかけを与えてもらえたことは本当にラッキーなことです。だからこのチャンスを使つて、たくさんの方に伝えたいことがあります。

“男性保育士”の『魅力』と『頑張り』とその『活躍』を！

“男性保育士”はまだまだ発展途上です。だからこそ、そこには大きな『チャンス』が眠っています。特別な能力なんかありません。“男性保育士”の成功例みたいになっている、シンガーソングライターになる必要もありません（目指したい人は別ですが）。

保育士という仕事が好きなら、ある視点に目を向けるだけで、誰でも輝けるその人だけの“男性保育士”像ができあがってきます。この本は、その一つのヒントだと思ってください。決してこれが正解なわけではありません。答えは無数にあります。ここでは“男性保育士”が誰もやってこなかった“実験”の結果の一つをお伝えしたにすぎませんから。

ただ、これをきつかけに、一人でも多くの“男性保育士”のハートに影響を与え、その人が輝ける世の中になっていくてくれたら嬉しいです。そう、読んでくれた皆さんのハートに火をつけたいのです。

最後に、この本を手にとって読んでほしいのは誰よりも“男性保育士”です。

全国にたくさん増えている“男性保育士”に伝えたい！そして、これから保育士を目指す“男子

学生”にも伝えたい！

欲を言うなら “男性保育士” と関わる職場の先生たち、保育学校の先生たち、また “男性保育士” を応援しようとしてくれていているパパママが手に取ってくれたのなら、幸いです。今も “男性保育士” は苦しみながらも、子どもたちの笑顔のために一生懸命頑張っていますよ♪

今津太陽